



地域子育てネットワークだより

平成31年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2798

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

子育て応援ネット全県大会を開催



地域ぐるみで子育て家庭への支援を推進する「子育て応援ネット」の全県大会が2月14日、約350名が参加し、兵庫県公館で開催されました。光愛児園の園児によるすばらしい斉唱で開幕し、子育て応援ネット推進母体による活動事例発表と「社会による子育てを考える 家庭の役割と社会の役割」をテーマに甲南大学文学部人間科学科教授・森茂起氏による講演が行われました。

子育て応援ネットは、今後も地域住民による子育て家庭の見守り活動等の展開を支援していきます。



挨拶

兵庫県地域女性団体ネットワーク会議 会長 北野 美智子



この大会は毎年実施しておりますが、子どもたちを守ることを普段から心がけないといけないということを今また改めて感じております。

地域の子どもたちが元気でかしく、そして、正しく、やさしい大人になってくれることを祈りながら、この活動に取り組んでいます。

しかし、現在活動している人達の高齢化が進んでおりますので、若い後継者をお願いせねばなりません。

現役の方々でも交代で見守り活動に参加するなど、「次世代を担う子供達は自分達で守る」という気持ちを持って続けていただいております。

講演

「社会による子育てを考える 家庭の役割と社会の役割」

甲南大学文学部人間科学科 教授 森 茂起

今回、講演するにあたって3地域の推進母体にインタビューを行いました。抱えている課題に共通性を感じました。この講演を通じて、地域の子供達は親だけに育てられるのではなく、社会からも育てられるということを再確認していただけたらと思います。

まず、インタビューでお聞きした地域のネットワークの活動についてですが、子どもを介したネットワークの重要性を改めて感じました。加えて、「少子化が進んだときのネットワークの構築方法」「活動が活発な地域とそうでない地域の差」「外に出てこない親子の虐待をどう防ぐか」が課題であると感じました。

子育て支援においても、地域性が反映されます。例えば活動がうまくいっている地域の例を自分の地域にとりいれていくということが県全体のレベルアップにつながりますが、地域によってとりいれられない場合もあります。

また、現在小学校区単位でさまざまな活動をされていますが、それらの活動にも地域格差が生じます。子育てはどの地域でもできる、という状態

を保っていくことが大事です。

日本は「自己犠牲」「献身」を過剰に尊ぶ国であるため、子育てしている親へ過度に期待しがちですが、親を応援するだけではなく、社会が子どもを直接育てる、ということも大事にさせていただきたいです。というのも、今は核家族の増加により、子育てにおける兄弟間の助け合いなどがなくなり、親への負担が増加し子育てが困難になっているからです。

昔は地域社会の結びつき等子育てを助けてくれる人の輪もありましたが、今ではネットワークを作るには特別な努力が必要になってしまいました。また、虐待の深刻な事例は転居してきた家庭（援助を拒否する家庭）に多くみられます。そういった家庭に対しては、チラシを配布する際に軒先で話す等の工夫が必要となってきます。

子育て応援ネット全県大会を活動の次世代へ継承するための知恵の交流の機会にさせていただきたいです。



子育て応援ネット活動事例発表

【高砂市地域子育て支援ネットワーク 見上 恵美子】 「高砂町婦人会の地域見守り活動」

私たち高砂町は、子供達の安全安心な地域づくりを目指して、各種団体が子どもの見守りを実施しています。私たち婦人会が月2回、14時45分に正門で待っていると、元気な声で「さようなら」と声を返してくれます。中学生も「こんにちは」と声をかけてくれます。

夏には、ふれあい祭りを行います。こども園の園児と一緒にあられちゃん音頭やおばQ音頭を一緒に踊ります。また、2年前からは中学校の生徒会役員も一緒に踊ってくれます。

今年は天候の都合でこども園の園児たちが夏のふれあい祭りに参加できなかったため、初めてこども園から運動会に招待され、婦人会と一緒に練習した盆踊りを踊りました。

また、毎年、トライやるウィークに協力します。企業やお店が休みの日に、婦人会員が生徒たちと一緒に料理教室を行います。

毎年1月14日に行われる、小学校の校庭での「とんどふれあい祭り」に参加し、婦人会は豚汁を500人分提供しました。

これからも地域で子どもたちにいつまでも平穏な日々が続くように、見守り運動を続けたいと思います。



【三木市女性団体連絡協議会 岡本 まり子】 「地域福祉の担い手として」

三木市では、平成17年11月、三木市女性団体連絡協議会を結成しました。

私たちは生涯学習をはじめ、地域づくり、高齢者への慰問活動、地域防災活動等幅広い分野の活動を行っていますが、ここ最近は、地域による子育て支援活動の輪を広げ、実践することにより家庭・地域づくりの推進につとめています。

三木市では「ひとりで子育てを抱え込まないで」という思いから、子育て親子を対象に、児童センターや各地域の公民館等で親子の交流や相談を行う、「子育てキャラバン」を実施しています。各地域で年間100回近く述べ140名のボランティアの参加があります。

また、「地域の子どもは地域で守ろう」をスローガンとして子どもたちの登下校時に立ち番や見守り活動を行う「人の目の垣根隊」を実施しています。

人々が安心して暮らしやすい地域社会の形成を目指して、地域に根ざした活動をしています。一人一人が地域を担い、互いに支え合いながら地域課題を的確に捉え、具体的な実践活動をしていることが私たちの誇りです。



「体を動かしたい」、「だれかと遊びたい」が子どもの欲求

県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載第139回

春の訪れとともに、学校や幼稚園から帰宅した子どもたちが、街角の公園に一齐に飛び出し、大声を発しながら夕陽を浴びて走り回っています。子どもたちのもつエネルギーの逞しさは、周りの大人にも元気を与えてくれます。

現代の子どもの問題として、スマホ遊びがよく取り上げられますが、ここでは体を動かすことが優先して、誰一人としてスマホに触れている子はいません。子どもの身体が潜在的に持っている「体を動かしたい」、「だれかと遊びたい」という欲求を引き出し、しっかりと満たしてやるのがいかに大切かわかります。

子育て支援では、子どもの視点に立った生活環境の改善が大切です。遊び場こそが、地域の子どもたちにとって一番大切な生活インフラです。地域のいろんな年代の子どもたちが、晴れの日も、雨の日も集い、安心して走り回って遊べる場こそが、子どもたちの健やかな成長発達に欠かせないのです。